

「教育実習を終えて」

[私立 S 中学校・高等学校 保健体育] 氏名：T.R

私は、母校である中高一貫の女子校で3週間実習をさせて頂きました。実習期間中は、授業の準備で寝る間がないほど忙しい日々でしたが、実習が終わった今振り返ってみると、授業運営よりも生徒との関わり方のほうが重要だったと感じています。

私は中学3年生から高校3年生の4学年の授業を担当しましたが、中学3年生の体育の授業では生徒との関わりにおいて、特に苦労しました。そのクラスは、不登校や体育の見学者が多く、在籍数は40人近いのですが、体育の授業に参加する生徒は毎回30人ほどでした。また、全体的にやる気が無く、精神的な問題から支援が必要な生徒が多いクラスでした。高校生の授業では、生徒が自らコミュニケーションを取ってくれ、実習生だから、と授業の至らない点をさりげなくサポートしてくれるのですが、中学生には、まず教員として受け入れてもらえていないような気がしました。初回の授業では、ランニングの数をごまかしている生徒に指摘すると逆切れをされたり、個人指導をすると「は？」と返答され、心が折れそうになりましたが、指導案の流れと指導案にある文言でその授業を乗り切りました。しかし、授業をたくさん行い様々な生徒と関わっていく中で、私の姿勢が良くなかったのではないか思い直し、生徒に煙たがられても、凶々しく関わっていくようにしました。その結果、最後の授業では、生徒たちからやり方を聞いてきたり、やる気のなかった生徒たちがミニゲームで盛り上がってくれたので、自分の工夫次第でたった3週間でも変化を感じることができるのだとわかりました。

実習が始まる前は、自分が本当に授業を行えるのかすごく不安でした。もちろん初めはうまくいかないことばかりで、改善できたこともありましたが、最後までうまくいかないこともありました。しかし、授業の失敗は後で取り返すことが出来るけれど、生徒との関わりでは一度失敗すると、それを取り返すのはすごく難しいので、実習では授業ももちろん大事ですが、生徒との関わりを大事にしてほしいと思います。

最後になりましたが、教育実習を受け入れてくれた実習校、また日ごろからご指導くださっている教育実習担当の先生をはじめ、お世話になったたくさんの方々に感謝いたします。